

ヤイトハタ仔魚の摂餌ワムシサイズ							
〔要約〕ヤイトハタの種苗生産において適正なワムシサイズを検討するためにタイ産ワムシとS型ワムシを用いてその摂餌状態を比較した。その結果、ヤイトハタ仔魚は摂餌開始時に110~160 μ mのワムシを選択的に摂餌し、その後は大型ワムシも十分摂餌可能となった。							
沖縄県水産試験場 八重山支場				連絡先	09808-8-2255		
部会名	水産	専門	種苗生産	対象	ヤイトハタ	分類	研究

【背景・ねらい】

ヤイトハタの仔魚は非常に小さいため初期餌料に小型ワムシ（タイ産ワムシ）を給餌することがその後の生残に良いとされている。しかし、実際に摂餌開始時に摂餌されているワムシのサイズについては明らかにされてないため、摂餌開始からその後数日間の摂餌されたワムシサイズの変化を調べた。

【成果の内容・特徴】

①98年度は1kl水槽、99年度には50kl水槽を用い、タイ産ワムシ給餌区とS型ワムシ給餌区の摂餌開始時の飼育水及び消化管内のワムシサイズ(被甲長)を測定した。

その結果、タイ産区では飼育水中のやや大型の個体が摂餌され、S型区では小型個体を選択的に摂餌されているのが確認された。両区とも摂餌されたワムシのサイズはほぼ一致し、110~160 μ mであった(図1,2)。このときの仔魚の全長は2.57~3.09mmであった。

②S型ワムシ給餌区では摂餌開始時から摂餌開始5日後までの飼育水及び消化管内のワムシのサイズを測定した。

その結果、摂餌開始以降徐々に大型個体が摂餌されるようになり、摂餌開始3日目以降は飼育水と消化管内のワムシサイズ組成が一致した(図3)。

③以上のことから、摂餌開始時は小型ワムシを選択的に摂餌するが、摂餌開始3日目以降はS型ワムシが十分摂餌可能となる。

【成果の活用面・留意点】

①ヤイトハタ種苗量産技術開発に必要な基礎的知見である。

②給餌ワムシのサイズと摂餌数の関係については明らかになっていない。

[具体的データ]

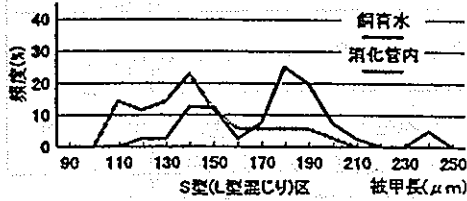
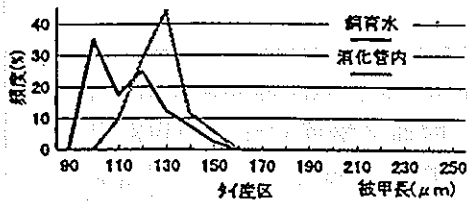


図1 摂餌開始日の飼育水及び消化管内のフムシサイズ(98年)

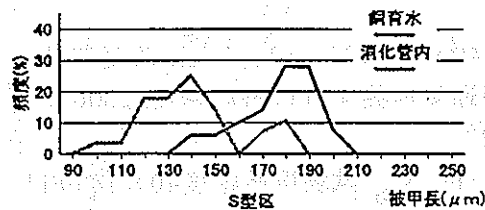
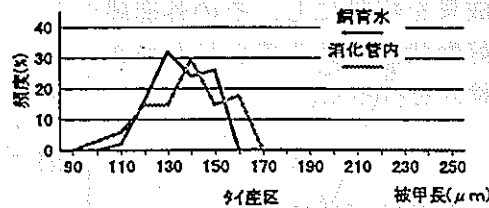


図2 摂餌開始日の飼育水及び消化管内のフムシサイズ(99年)

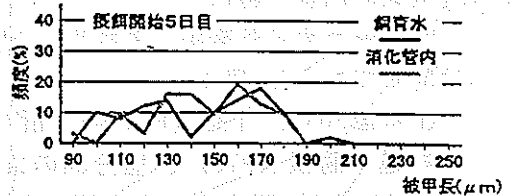
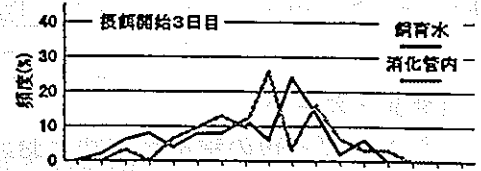
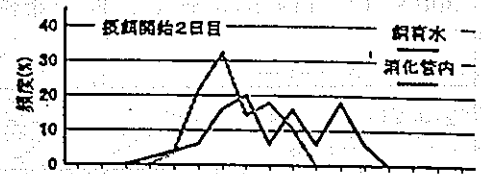


図3 摂餌開始2～5日後の飼育水及び消化管内のフムシサイズ(99年)

[その他]

研究課題名：ハタ類種苗量産養殖技術開発試験

予算区分：県単独事業

研究期間：平成10～11年度(平成11年度)

研究担当者：大嶋洋行・中村博幸・仲盛淳・岩井憲司・仲本光男

発表論文等：平成10年度沖縄県水産試験場事業報告書(掲載予定)

平成11年度沖縄県水産試験場事業報告書(掲載予定)